

# 1 3歳児の発達の特徴と指導のポイント、保護者との連携

## ～3歳児の特徴～

### みて！みて！ジャンプするよ！

基礎的な運動能力が育ち、自分の体の動きをコントロールできるようになり、身体を動かす心地よさを感じられるようになります。

### いや！じぶんで！

「いや！」と納得しないことへの拒否、「じぶんで！」など自分でやりたい思いの表出など、強く自己主張をするようになります。自己主張がぶつかり合うことでけんかになりますが、けんかを通して相手を意識するようになり、徐々に社会性を身に付けながら、自我の成長へとつながっていきます。

### 「いれて～」「だめよ！」

友達と一緒に同じ遊びをする楽しさが分かり、関わりを求めようようになりますが、自分の思いや考えを通そうとしてトラブルになることがあります。それでも友達と遊ぶことは楽しく、集団生活を重ねながら、友達を求めて遊ぶ気持ちが高まっていきます。

### ぼくはヒーロー

自分のイメージを広げながら、ごっこ遊びを楽しんだり、なりきって遊んだりする姿が見られます。

### 「？」がたくさん！

「なぜ？」「どうして？」「どうして？」と質問したり、注視したりして、周囲の様々なものに対する好奇心や探求心が高まっていきます。

## ～指導のポイント～

新入園の幼児、乳児期からの進級児など保育の経験は異なりますが、集団生活の新しい環境においては、個々の幼児にとって保育者の存在は重要です。幼児との信頼関係を築き、幼児が安心して行動したり、友達への関心を高めたりできるようにします。個々の幼児への関わりを大切にしながら、同時に集団の場が楽しく、心地よい場となるように活動を精選し、みんなで取り組む楽しさを感じられるようにします。

### 保護者との連携

#### 4～5月

- ・進級・入園による喜びや新しい環境への不安な気持ちを受け止め、園での様子を伝えたり、家庭の様子を聞いたりして連携を密にしていきましょう。
- ・今年度の保育・教育方針や行事の日程、意義などについて保護者会などで分かりやすく伝え、保護者が安心できるようにしましょう。
- ・身の回りの所持品は子供の扱いやすい物を用意するよう具体的な見本を示して伝えましょう。

#### 6～9月

- ・9月は生活の乱れや夏の疲れが出てくる時期なので、食事・睡眠・休息などの生活リズムを整え、体調に配慮することの大切さを保護者会や個人面談、配布物などで伝えましょう。
- ・園生活の中で身の回りのことを自分でしようとしている姿を保護者に伝え、子供の成長を喜び合いながら、子育ての楽しさや大変さを共有していきましょう。

#### 10～12月

- ・運動会や生活発表会など行事への参加の仕方は個人差があることを伝え、一人一人の成長を感じてもらえるようにしましょう。保護者が成長の見通しや期待をもてるよう3歳児の発達について伝えていきましょう。
- ・「なぜ？」「どうして？」の質問が多くなる時期なので子供の言葉や気持ちを受け止め、応じていくなど親子の関わり方を具体的に伝えていきましょう。

#### 1～3月

- ・子供の1年間の成長を具体的に保護者に伝えて喜びを共有しながら進級する気持ちへつなげていきましょう。
- ・自己主張や自立心が強くなる一方、甘えたい気持ちもある時期です。それらの気持ちを温かく受け止めることが子供の成長にとって大切なことを一人一人の発達の状況に合わせて伝えていきましょう。

3歳児年間の流れ～～おさえないポイント（◎ねらい ○内容 ♥環境・援助）～～

	生活	人とのかかわり	学 び
ねらい 4 ・ 5 月	◎保育者に手伝ってもらいながら生活に必要なことを自分でやってみようとする。	◎保育者に触れたり甘えたりして、親しみをもつようになる。	◎気に入った遊具や場を見つけて園での時間を安心して過ごす。
	○進級児・新入園児ともに新しい環境での生活の仕方を知り保育者に手伝ってもらいながら自分でできた喜びを感じる。 ♥持ち物の置き場所の分かりやすいところに「自分のマーク・名前」を貼っておきましょう。 ♥持ち物の始末を一緒にしたり、言葉を交わしたりなど温かく関わることで、信頼関係を築いていき子供が安心して一日の生活を始められるようにしましょう。	○自分のクラスや担任、友達を覚え親しむ。 ○保育者がすることを見たり、保育者の動きに関心をもって関わったりして、楽しさを感じる。 ♥保育者は自分のことを受けとめてくれたり、困ったときは助けてくれたりする存在であることが分かるように、一人一人と関わったり、やっていることを言葉に出し認めたりしましょう。不安そうにしている子供には一緒に手をつないだり遊んだりして、一人一人に応じてスキンシップをもつようにしましょう。	○したいこと、してほしいことや困ったことなどを、保育者に自分なりの動きや言葉で表し、伝えようとする。 ○保育者のすることに興味をもち、初めてのこともやってみようとする。 ♥保育者が積極的に遊びや環境に関わり、楽しさを表現し、子供たちの意欲を引き出しましょう。 ♥教材の精選や置き場所などの配慮をしましょう。
ねらい 6 ・ 7 ・ 8 ・ 9 月	◎保育者に言葉を掛けられながら、生活に必要なことを自分でやってみようとする。	◎近くにいる友達と触れ合い、一緒に過ごす楽しさを感じるようになる。	◎気に入った場や遊具で、面白いと感じたことを繰り返し楽しむ。
	○持ち物の始末や衣服の着脱、排泄、片付けなどのやり方を知り、保育者に言葉を掛けられながら自分でしようとする。 ♥身の回りの始末や片付けを自分でやろうとしている姿を見守ったり、励ましたりして、できないときには保育者がやり方を知らせながら手伝ったりして、自分でしようとする気持ちを育てていきましょう。	○みんなと同じ場で、保育者の真似をして、体を動かしたり、手遊びをしたり歌ったりする楽しさを感じる。 ○面白そうなことをしている友達と同じ場で過ごしたり、同じような動きをしたりする楽しさを感じる。 ♥一人一人の気持ち満足することを大切に、自分の気持ちが安定することで、友達に関心をもち、「関わりたい」という思いがもてるようにしましょう。	○水を使ったいろいろな遊びをすることで、水に触れる心地よさを感じる。 ○好きなものになりきって動いたり、身に付けて遊んだりする楽しさを味わう。 ♥感触を楽しんだり開放感を味わったりできるものを天候や遊びの様子に応じて設定しましょう。 ♥身に付けたり見立てたりして、なりきって遊んでいる一人一人の思いや姿を受け止め、自分なりの楽しみ方ができるようにしていきます。
ねらい 10 ・ 11 ・ 12 月	◎大まかな生活の流れを感じながら、自分でできることは自分でしようとする。	◎自分がしたいことをしたり、面白そうなことをしている友達と関わったりする中で、遊びの楽しさを感じる。	◎自分の思いやイメージを動きや言葉で表す楽しさを感じる。 ◎園内の環境や、保育者の動きを見て「やってみよう」という思いで関わる。
	○身の回りの整理整頓など自分のことは自分でしようとする。また、次にすることが分かり、準備や片付けなど自分でしようとする。 ○季節に応じた生活の仕方を保育者と一緒にしていく。 ♥生活の流れの中で準備や片付けなどに気付いて自分から行おうとする姿を認め、楽しい雰囲気を取り組めるようにしましょう。 ♥生活習慣については一人一人に応じて手助けしたり励ましたりしながら、自分から気付いてやっという気持ちを引き出すようにしましょう。	○同じ遊びの場で友達と一緒にいたり、関わったり、触れ合ったりすることに心地よさを感じる。 ○友達と同じことがしたいという気持ちが高まり一緒に遊ぼうとする。 ♥気に入った友達と関わりたい気持ちが強くなってきているので、触れ合うような場を作ったり、それぞれの思いを受け止めて言葉に表したり、相手にも伝えていきましょう。 ♥個々の思いや動きを保育者が受け止め、実現できるようにしながら、友達の思いも知らせていきましょう。	○手遊びや歌や踊りを保育者や友達と一緒に表現して遊ぶことを楽しむ。 ○見立てて遊んだり、なりきって動いたりする楽しさを感じる。 ♥親しみやすい歌や手遊びや踊りなどをみんなと一緒に楽しんだり、絵本や紙芝居を見たりする機会をもちましょう。 ♥自分なりのイメージの中で、なりきって動いている様子を受け止め、言葉に出して認めていきましょう。
ねらい 1 ・ 2 ・ 3 月	◎大まかな生活の流れが分かり、自分でできることは自分でしようとする。	◎みんなと一緒に過ごす中で、自分なりに動く楽しさを感じる。	◎自分の思いを自分なりの方法で表しながら、遊びを楽しむ。
	○身支度や遊んだ後の片付け等をする中で、自分でできた満足感を味わう ○3歳児なりに一日の生活の見通しをもつ。 ♥自分でやろうとしている姿を認め励まし、自分でできたという喜びや満足感がもてるようにしていきます。 ♥保育者が一緒に動きながら、片付けの後に楽しいことがあることを知らせ、期待をもたせ、片付けの取組を促していきましょう。	○保育者や友達のしていることに興味をもって、自分から関わって遊ぼうとする。 ○相手の動きや保育者の話などから、相手にも思いがあることに気付いていく。 ♥一人一人が自分の思いを出したり伝えたりできるよう、また互いの思いを受け止めて遊びが進められるように仲立ちしていきましょう。 ♥言葉で表したい思いが伝わるように、代弁したり助言したりし、その中で思いが伝わっていく心地よさを感じられるようにしましょう。	○悲しいこと、うれしいこと、いやなこと、考えたことを自分なりに言葉に出して表現する。 ○絵本や紙芝居などを見たり、聞いたりして言葉の面白さに気付く。 ♥自分の思いを言葉で伝えるとともに、保育者や友達などの話について興味をもって聞くことを通して次第に話を理解し言葉による伝え合いができるようにしていきます。 ♥表現しようとする意欲を受け止めて、生活の中で子供らしい様々な表現を楽しむことができるようにしましょう。

※年間指導計画については、平成25年3月発行の台東区幼児教育共通カリキュラム「ちいさな芽（実践編）」参照

# 事例1

3歳児	7月中旬	みんなでスタンプ遊び！ ～いろいろな素材でのスタンプ遊びを楽しむ～
ねらい	・ いろいろな素材の形の面白さを感じながら、スタンプ遊びを通して自分のイメージを表現することを楽しむ。	

活動の流れ・幼児の姿	○保育者の指導・援助    ★環境の構成
<p>スタンプ遊びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者が模造紙を広げたり、スタンプ台を出したりしていると、興味をもった幼児は近くに寄ってきて、手伝おうとする。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタンプ遊びに興味をもった幼児から順に素足になり、スモックを着て模造紙の周りに集まる。</li> <li>・好きな場所や興味をもった素材を選んでスタンプ押しを始める。</li> <li>・スタンプを押したり、転がしたり、模様の変化に驚いたり、気付いたりする。</li> <li>・スタンプでいっぱいになった紙面からのイメージで、周囲の玩具を持ってきて、その上で動かして遊ぶ。</li> <li>・紙面を見て見付けたことを言葉にする。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・使った物の片付けをする。</li> </ul>	<p>○保育者の指導・援助    ★環境の構成</p> <p>○幼児の「手伝いたい」という気持ちを受け止め、一緒に模造紙を広げたり、スタンプ台やスタンプを周りに置いたりする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;">  <p>素…素材・スタンピング台、幼児が密にならないように設置。          ⊙…幼児は2枚の模造紙の中で自由にスタンピングしている。          (当日は幼児16名参加)</p> </div> <p>○素足になること、スモックを自分で着るように促す。自分でできた幼児には、「一人で着られたね。」と言葉を掛けて認める。</p> <p>○押す、転がす、重ねるなどの自由な取り組みからできた形を「こんな形になるんだね。」「不思議な形だね。」など、言葉にして認め、友達の作った形にも興味をもてるようにする。また、保育者も一緒に楽しそうに活動する。</p> <p>★一箇所に集中しないように、空いている場所に広がるように言葉掛けをする。また、自分のスタンプや場所などへのこだわりがある幼児には、気持ちを受け止めたり、別にスペースを確保したりして、気持ちを落ち着けて取り組めるようにする。</p> <p>○幼児の気付いたことを保育者が繰り返して言葉にすることで、他児の気付きにも興味・関心をもつことができるようにする。そして、一人一人の満足感や「またやりたい!」という気持ちをもてるようにして、次回への期待感を高める。</p> <p>○使用済みのスタンプ素材の片付けを、幼児と一緒にいき、「すっきりきれいになったね!」と片付け終わった気持ちよさを感じられるようにする。</p>



## 3歳児カリキュラムⅡ期 6月～9月

生活：保育者に言葉を掛けられながら、生活に必要なことを自分でやってみようとする。

人とのかかわり：近くにいる友達と触れ合い、一緒に過ごす楽しさを感じるようになる。

学び：気に入った場や遊具で、面白いと感じたことを繰り返し楽しむ。

### 1 スタンプ遊びの楽しさを感じられるように

#### 幼児がのびのびスタンプ遊びを楽しめるための工夫

- ・ 前日に「これはどんな形になるかな?」と、幼児と一緒にスタンプ遊びの素材になりそうなものを探しながら、ブロックや電車、給食の廃材の野菜など、身近なものに気付けるようにして、当日に期待をもたせる。
- ・ 前日に選んだスタンプの素材以外にも、室内にあるブロック等の玩具で試したい、という気持ちを受け止め、周りのいろいろな物に目を向けられるようにする。
- ・ スタンプを押すだけではなく、転がしてみたり、擦ってみたりするなど、幼児の自由な扱い方を認め「面白い模様だね。」「何の形かな?」などと言葉にして取組を価値付ける。



### 2 活動の満足感を感じられるように

#### 自分のイメージを表現できるようにするための工夫

- ・ スタンプ遊びをしていくと「○○みたい。」と見立てを言葉で表す姿が出てくる。保育者はすぐに幼児の言葉を「線路みたいだね。」「天の川だね。」と繰り返す。そのやり取りを通して、さらに、イメージにそって電車や人形などを持ち寄り、ごっこ遊びを始める。幼児の自由な発想を認め、共に楽しむことで、遊びの満足感を感じられるようにした。



## 4歳児に向けて大切にしていること

#### 〈生活〉

- ・ 保育者の動きを見たり、言葉を掛けられたりする中で、自分でもやってみようとする気持ちを育てる。
- ・ みんなで過ごすために必要な順番や、遊具の貸し借りなどの約束を知らせていく。
- ・ 保育者も一緒に遊びにわりながら、広い場所で思い切り体を動かす心地よさや、繰り返しのある遊びの面白さを感じられるようにする。

#### 〈人とのかかわり〉

- ・ 保育者に受け入れられていると感じ、安心して過ごせるように気持ちを受け止めていく。
- ・ したいこと、してほしいことや困ったことなどを保育者や友達に自分なりの動きや言葉で表し、伝えようとする姿を受け止めたり、代弁したりしていく。
- ・ 幼児の「楽しい」という気持ちに共感し、保育者も一緒に遊びながら、周りの幼児にも友達と遊ぶ楽しさを伝えていく。

#### 〈学び〉

- ・ 身の回りにあるいろいろな素材を使って自分のイメージをのびのびと表現できるよう一人一人の表現を受け止め、一緒に楽しんでいくようにする。
- ・ 素材や用具、教材を使いやすいように、取り出しやすい場所に用意しておき、自分のイメージで遊びの場を作ることができるようにする。

## 事例2

<b>3歳児</b>	11月中旬	この遊びがやりたいな ～自分なりに表現する楽しさを味わう～
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な素材を使って見立てたり、遊びに使うものを作ったりして一人一人が表現することを楽しむ。</li> <li>・保育者や周りの友達の動きを見て「やってみたい。」と思ったことに関わり、自分なりの動きや言葉などを出していく楽しさを感じる。</li> </ul>	

活動の流れ・幼児の姿	○保育者の指導・援助    ★環境の構成
<p>好きなものを作って遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りのものを模様、食べ物、動物などに見立てたり、イメージを広げたりして好きなものを作る。</li> <li>・空き容器に木の実、小枝、ボタンなどを入れ、容器を振って音を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★広告紙を丸めた棒、いろいろな形に切った紙、ハサミで一回切りができる幅の紙、紙テープ、京花紙、お面バンド、動物の絵などの素材、セロハンテープやハサミなどの用具を使いやすく、目につきやすいようにテーブルの上に置いておく。</li> <li>★音を鳴らす楽しさを味わえるように、大小の容器、紙コップ、木の実、短く切った枝、ボタン、ビーズなどを自由に使えるように用意する。</li> <li>○作ったものを手にしてイメージを広げたり、つぶやいたりする姿を認め、面白さに共感する。</li> <li>○容器の素材や大きさ、中に入れる材料の違いにより、いろいろな音が出る様子を見守ったり、耳を傾けたりして幼児の取組を認めていく。共に聞き合って、音色の違いを楽しむ。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○作ったものを手にしてイメージを広げたり、つぶやいたりする姿を認め、面白さに共感する。</li> <li>○容器の素材や大きさ、中に入れる材料の違いにより、いろいろな音が出る様子を見守ったり、耳を傾けたりして幼児の取組を認めていく。共に聞き合って、音色の違いを楽しむ。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽に合わせて、作った楽器や鈴を鳴らして踊る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★カセットデッキやカセットテープを取り出しやすいように用意しておく。</li> <li>○保育者は音の出る作品を鳴らす時には、音楽に合わせて自由に動いて、楽しんでいる姿を表情や動きで幼児にしっかりと伝える。</li> <li>○幼児の動きを見ながら、「楽しそう」「かっこいいね」等、言葉で表したり、幼児の動きをまねしたりして、幼児の取組を認め、音楽に合わせて自由に動く楽しさを感じられるようにする。</li> <li>○自由な表現を認めながら、個性的な表現をしている幼児を取り上げて紹介し、互いの刺激にしていく。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分たちで片付けやすいように収納場所には表示を付けておいたり、動線を確認したりする。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で遊んだ遊具や用具、場を元の場所に片付ける。</li> </ul>	

### 3歳児カリキュラムⅢ期 10月～12月

- 生活： 大まかな生活の流れを感じながら、自分でできることは自分ですようとする。
- 人とのかかわり： 自分がしたいことをしたり、面白そうなことをしている友達と関わったりする中で、遊びの楽しさを感じる。
- 学 び： 自分の思いやイメージを動きや言葉で表す楽しさを感じる。  
保育者が設定した環境や動きに「やってみよう」という思いで関わる。

## 1 一人一人が「やってみたい」と思える遊びを見付けられるように

### やりたい遊びを見付けて取り組んでいけるための工夫

- ・ 保育室や園庭の中で、どこに何があるのか、どこでどのような遊びができるのかについて、幼児が分かり、自分たちで取り出したり、片付けたりできるような表示や物の置き方、物の数などを整えて環境を構成する。
- ・ 好きな遊びを自分で選んで遊べるように、自分の遊びの拠点となる場を作るための物(幼児が持ち運び可能な衝立や仕切り、囲いなど)を定位置に置いておき、そこから幼児が出せるようにする。
- ・ 幼児の気持ちを受け止めながら、保育者も遊びに入ったり、その遊びの楽しさに共感したりする。



## 2 表現する楽しさを感じられるように

### 表現する楽しさを味わえる工夫

- ・ 保育者は幼児の動きを生み出すモデルである。保育者が作った音の出る玩具を鳴らして楽しそうに動き始めたり、動物のお面を身に着けて、仲間としてその動物になりきって関わったりしながら、遊びの楽しさを言葉や動きで伝えるようにする。
- ・ 音の出る玩具作りでは、3歳児が自分で扱える小さな入れ物、両手で扱う大きな容器等、いろいろな大きさの物を用意した。容器の素材や中に入れる材料の種類や数によっても音色が異なることに気づき、その違いを楽しんでいた。保育者は、個々の幼児が作り出した音に関心を示し、耳を傾けたり、幼児同士で聞き合ったりして、楽しさに全身で共感するようにした。

## 4歳児に向けて大切にしていること

### 〈生活〉

- ・ 保育者に言葉を掛けられたり、部分的に手伝ってもらったりしながら、身の回りのことを自分でできるようにして、その様子を見守り、できたことを共に喜び合えるようにする。

### 〈人とのかかわり〉

- ・ 友達と関わる場を通して、自分の思いの表し方や相手の気持ちに気付いていけるきっかけを作り、簡単なやり取りを楽しめるようにする。
- ・ 幼児同士の望ましい関係が築けるように、モデルとしての保育者の言動を意識して関わる。

### 〈学 び〉

- ・ 自分のしたい遊びを見付け、じっくりと取り組めるように環境を整え、遊びに必要な素材や用具を準備しておく。また、発達の時期を踏まえながら、幼児が自分たちで場を作れるように、必要な物の置き場所を決めておく。